

校舎落成記念

昭和61年10月18日

大阪市立泉尾工業高等学校

式 次 第

1. 開 式 の 辞
2. 校 歌 斉 唱
3. 学 校 長 式 辞
4. 大 阪 市 教 育 委 員 会 挨 拶
5. 生 徒 代 表 よ ろ こ び の 言 葉
6. 校 旗 引 継 ぎ
7. 閉 式 の 辞

記 念 講 演

松下電器産業株式会社 相談役

山 下 俊 彦 氏

(昭和12年 本校卒業)



玄関付近



玄関正面



大阪市長

大島 靖

挨拶

大阪市立泉尾工業高等学校の新校舎落成を心からお喜び申し上げます。

本校は大正11年に創立されて以来、60有余年にわたる歴史と伝統に輝き、その間、産業界をはじめ各界に数多くの優秀な人材を送りだしてこられました。

こうした輝かしい伝統をもつ本校も、長年の風雪に耐えて、校舎の老朽化が進み、更に技術革新のめざましい進展に対応するために、各学科の実習・実験棟の改築を実施し、本年6月、体育館の竣工をもって、全面改築事業の完成をみたのであります。これもひとえに、本校関係者並びに地域の皆様方のお力添えの賜であり、厚くお礼申し上げます。

さて、大阪市では、3年後の昭和64年に市制100周年を迎え、21世紀を展望した大阪の町づくりを、進めているところであります。また、昭和65年には、「国際花と緑の博覧会」が開催されることになり、大阪を世界に開かれた国際文化都市として、活力あふれる町にしたいと思っておりますが、この大阪の町づくりの最も基礎となるのは、教育であり、次代を担う人材の育成であります。

本校教職員をはじめ関係者の皆様方には、21世紀を創造する心身ともに健全で有能な技術者の育成に、今後とも一層の御尽力をお願い申し上げますとともに、本市教育の発展に大きな役割を果たして頂きますようお願い申し上げます。

最後に、泉尾工業高等学校の今後益々の発展と地域の一層の御繁栄をお祈り申し上げます。御挨拶いたします。



大阪市教育委員会 教育長

塚谷 敏夫

祝 辞

大阪市立泉尾工業高等学校の新校舎完成に際し、一言御挨拶を申し上げます。

本校は、大正11年に化学系統を中心とした工業学校として設立され、その後、機械科及び電気科を併設し総合的な工業高校として、着実に発展を遂げられ、今日の隆盛を築かれました。この間、本校教育に情熱をささげてこられました歴任教職員並びに常に暖かい御支援・御協力を賜りました、地域・PTA並びに同窓会の皆様方に対し、心から敬意を表しますとともに、深く感謝をいたします。

このたび、関係者の方々のお力によりまして念願の新校舎が完成しましたが、この改築に際しましては、プールを屋上に設置し、運動場のスペースを十分に確保したり、体育館の大幅な拡充を行うなど、教育効果を高めるための配慮がなされております。

本校では、「人類の平和と社会の福祉に貢献し得る工業人の養成」を教育方針の目標として、日々努力され、創立以来1万1千名を超える有為な人材を育成してこられました。教職員の皆様方には、今後とも、この優れた伝統を受け継がれ、充実した施設・設備を活用されて、21世紀を担う人材を社会に送り出して頂きますようお願いいたします。

終りに、新校舎建設にあたり、特段の御尽力を賜りました関係者の方々へ厚くお礼申し上げますとともに、本校関係者並びに地域の皆様方の本市教育行政に対する、一層の御支援と御協力をお願いしまして、記念誌発刊にあたっての御挨拶いたします。



学校長

松澤義平

式 辞

本校は大正11年10月20日に創立されて、以来64年を経過しました。

当時、この大正区泉尾は、人家もまばらで、堀割の入りくんだ広々とした空地でありました。その真中に白亜、3階建の堂々たる工業学校、現在の泉尾工業高等学校が建設されました。その頃、わが国は政治、経済、産業、文化、あらゆる面で、興隆発展期にあり、大阪市も近代産業都市への体質改善をめざし、工業教育の充実が強い市民的要望でもありました。こうした状況のもと、化学を中心とする工業学校が西日本ではじめて誕生したのであります。

白く、どっしりとした本館、そのうしろの高い2本の煙突が、国家興隆のなかに産声をあげ、工業立国の意気に燃える当時の生徒・教職員の大いなるロマンを象徴するかのように煙を吐いていたといえます。

爾来、今日まで世界状況は変転極まりないものがあり、本校もまた第二次世界大戦をはさんで、幾多の苦難と試練にさらされつつも、生徒・教職員はじめ多くの関係者の方々の努力により乗り越えて、1万名を越す優れた人材を産業界はじめ各界におくり、今日にいたったのであります。

しかし昨今の産業界における技術革新の進展はまことに激しく、かの産業革命をはるかに凌ぐ社会変化を及ぼしつつあります。このような変化に柔軟に対応し得る、そして21世紀へむけて豊かな人間性を具えた工業技術者の育成が極めて重要な時代的要請として、工業教育の場に強く求められています。

このため、70年近い風雪に耐えた本校の全面改築の必要性と共に、これら要望に充分、応え得るための施設

・設備の整備事業が昭和48年から着々と進められてきたところであります。

その間、大阪市教育委員会をはじめPTA、大阪白水会、教育後援会、泉会等、筆舌に尽し難いご苦勞をおかけし、本校のためにご尽力いただきました。本当に有難く厚くお礼を申しあげる次第でございます。

いま、ここに完成し、陽光に映える白亜の大校舎群を仰ぎみると、私は多くの先輩諸兄が黙々として使命達成のため刻みこんだ足跡の残るあの想い出多いどっしりとした旧校舎のかつての姿がオーバーラップして、ひとしおの感慨を覚えるのであります。

本日の記念式は、「過去を顧りみて、将来をおもう」ことに意義があると私は思います。

創立以来、本校のなかに脈々として流れ続け、受け継がれてきた「誠実」「創意」の不易の精神。それを礎に21世紀の泉尾工業の将来を展望するという、この過去と未来の接点にこそ、いま、私達はいます。この記念すべきときにあたり、私達が私達の「あるべき姿」を私達自身に問かけること、そのことが本日の意義ある式典を最も意義あらしめることと私は思います。

さらにまた「伝統」は単なる時間的経過の多少のみがその価値を決定するものではなく、与えられた条件のなかで、如何にベストを尽し得たか、そして将来に向け如何なる道を歩もうとするか。それこそ問われるべきであります。先輩の築きあげてきた伝統は尊いものであるが、それに依存すること無く、現実を直視し常に前途に希望の灯を掲げて、21世紀へむけ力強く踏み出す決意をあらたにして努力されることを期待し、式辞といたします。



PTA会長

山畑阿威磨

校舎新築落成に寄せて

60余年の歴史の流れは、色々の事実を私達に語りかけてくれます。そして、校舎とは「青春のMONUMENT」とも言えましょう。しかし古き校舎はそれなりの使命を終え、いまここに21世紀への若人の希望と夢を育て叶えるに充分な新校舎に生まれ代わりました。設備の完備された環境の中で教育されることを、子供達共々私達もしっかりと認識し、私達の持ち続けた夢と希望を子供達に託し、知性溢るるテクニシャンとして、この新しい校舎から、伝統を背に大きく飛翔される日を期待します。

校舎新築に当たり大阪市関係当局の御理解と白水会並びに保護者の御援助に對し心よりお礼申し上げ新校舎落成の言葉にさせていただきます。



白水会長

横山幸男

精 華

皆さん、おめでとうございます。今日この日は私にとって、一生忘れ得ぬ日となるでしょう。思えば約50年昔、胸ときめかせて入学した母校、創立60有余年にして面目一新された校舎、感無量です。校長先生をはじめ学校・PTA・その他関係の方々の一丸となつての御努力が、今日の精華となりました。私も微力ながら白水会会長として御相談を受け、皆様引張られ乍ら、なんとか後輩諸君のために頑張つて参りました。

後輩諸君、この新校舎に於いて、人格と学業を身につけて、明日の日本のため盡して下さい。皆様本当に有難うございました。



教育後援会長

中村孝

より良い環境の下で

近年実業教育の重要性が見直されつつあるこの時期に、種々の財政難を押し切り、校舎の改築を見るに至りましたことは、市政当局の教育に対する深い理解と、関係各位の御協力によるものと感謝いたしております。

「教育は校舎にあらず、教育者の人格にあり」とは、名言と言えましょう。しかし、熱烈な人格教育を、より良い環境の下で施すならば、教育の成果はより向上すると言つて過言ではありません。

生徒諸君、この設備の整つた校舎の中で、すばらしい教育を受け多くの知識を身につけ、立派な社会人となられることを期待して、落成のお祝いの言葉といたします。

校舎建設工事報告

大阪市都市整備局

- 昭和38年6月15日 電気科校舎(西館北側部分)完成
- 昭和39年3月31日 化学機械科(現機械科)校舎(西館南側部分)完成
- 昭和47年3月31日 化学機械科(現機械科)実験実習棟完成
- 昭和49年5月31日 繊維工業科校舎1・2階(北館西側部分)完成
- 昭和50年9月 1日 繊維工業科校舎3・4階(北館西側部分)完成
- 昭和53年2月15日 色染工業科校舎(北館東部分)完成
- 昭和57年3月10日 工業化学科校舎(南館西側部分)完成、窯業科校舎(南館東側部分)一部完成
- 昭和58年3月31日 窯業科校舎(南館東側部分)完成
- 昭和60年8月10日 本館校舎(屋上プール付)完成

建築物	工 期	構 造	建築面積	延 面 積
本館棟	昭和59年9月3日	鉄筋コンクリート造4階建	1,205.38㎡	4,542.38㎡
渡り廊下 (本館・西館)	～昭和60年8月10日	鉄骨造4階建	59.45㎡	178.30㎡

工 事 名	業 者 名	設 計 事 務 所
建 築 工 事	中林建設(株)	(株)双星設計
電 気 工 事	雄電・大浪建設共同企業体	(株)旭設備計画
水 道 工 事	小向・誠建設共同企業体	(株)旭設備計画
瓦 斯 工 事	大阪ガス(株)	

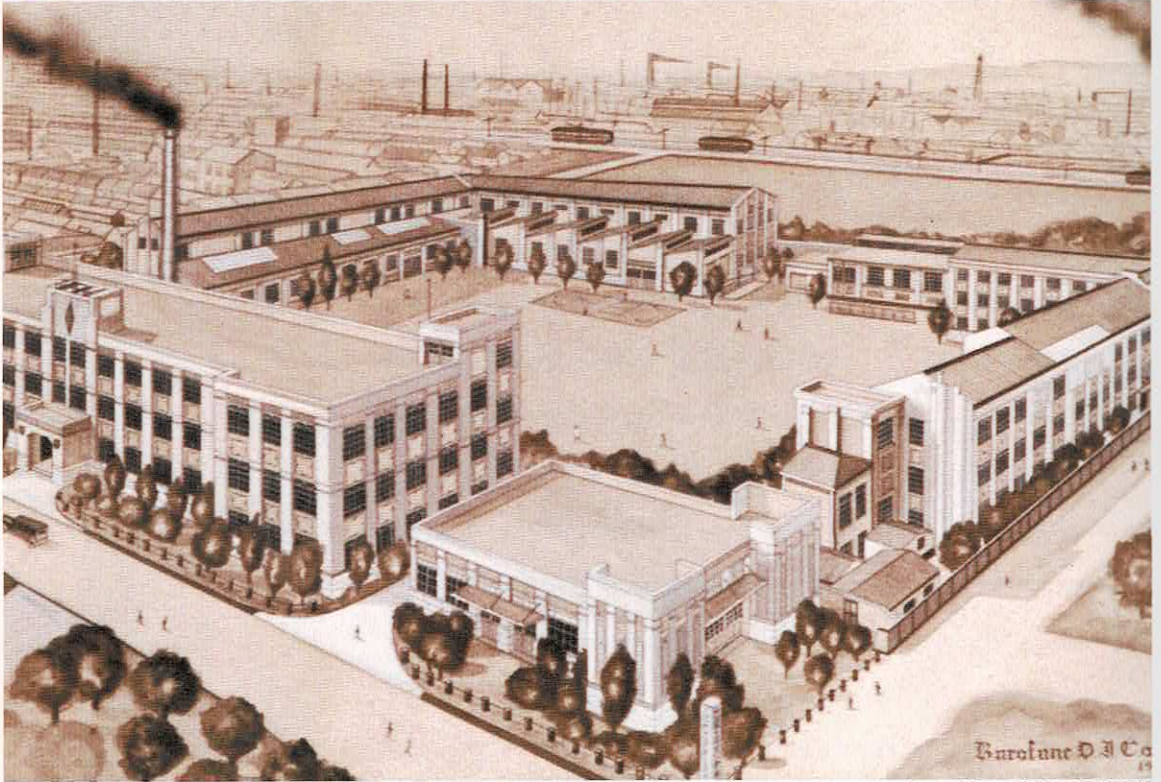
昭和61年7月20日 体育館完成

建築物	工 期	構 造	建築面積	延 面 積
体育館棟	昭和60年9月4日	鉄筋コンクリート造3階建	1,471.81㎡	2,762.08㎡
渡り廊下 (本館・体育館・南館)	～昭和61年7月20日	鉄骨2階建	73.42㎡	73.42㎡

工 事 名	業 者 名	設 計 事 務 所
建 築 工 事	土屋組・浪速土建共同企業体	(株)双星設計
電 気 工 事	大浪電設(株)	(株)旭設備計画
水 道 工 事	誠建設工業(株)	(株)旭設備計画
瓦 斯 工 事	大阪ガス(株)	

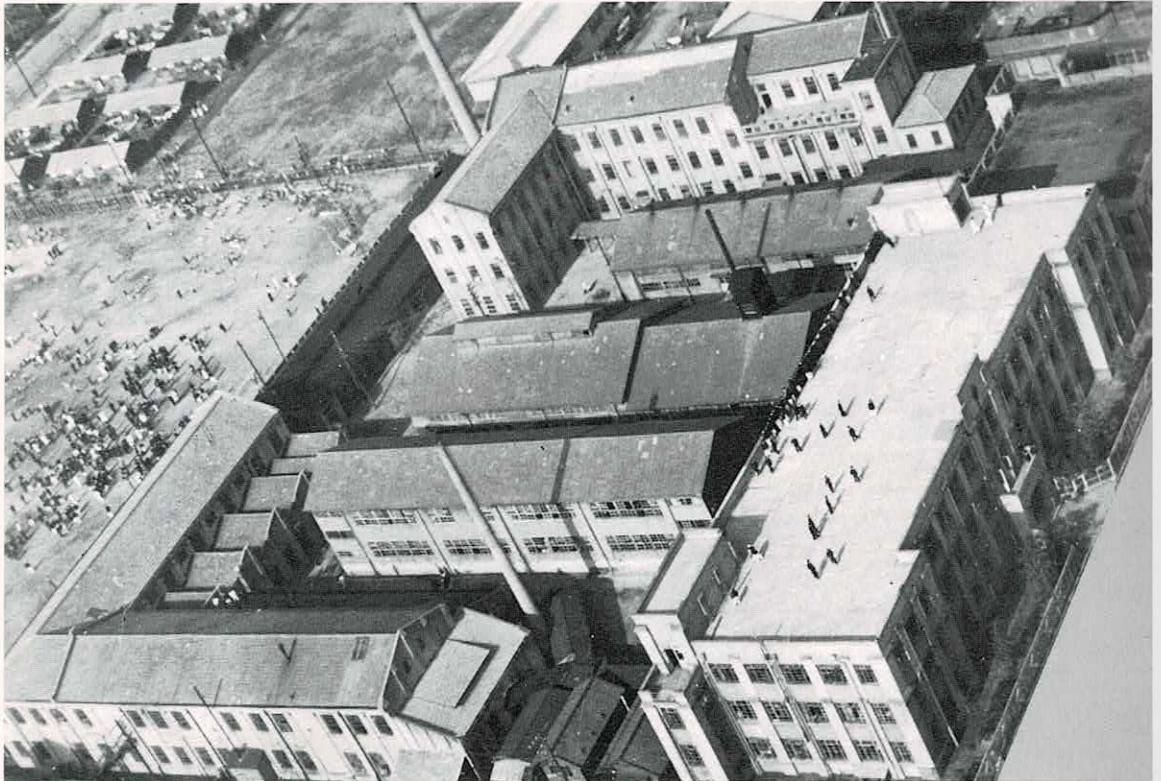
泉尾工業学校の誕生

■ 工業学校時代

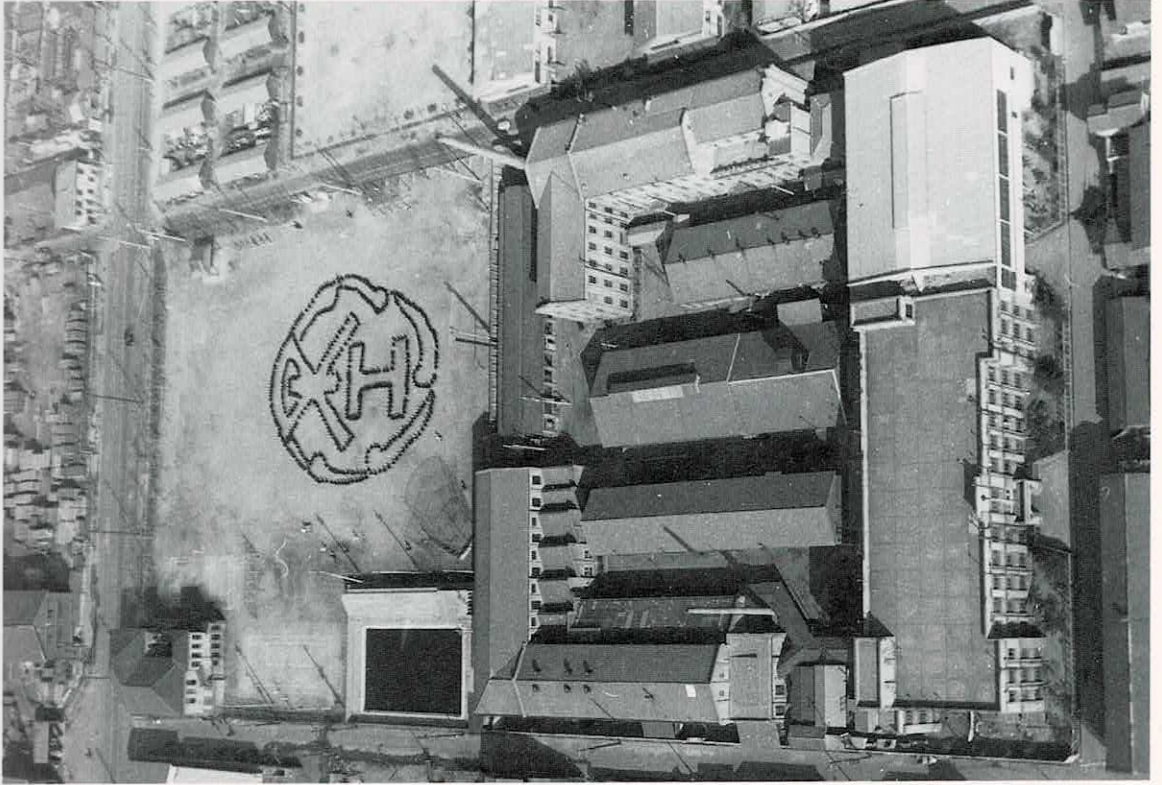


大正期～昭和13年頃

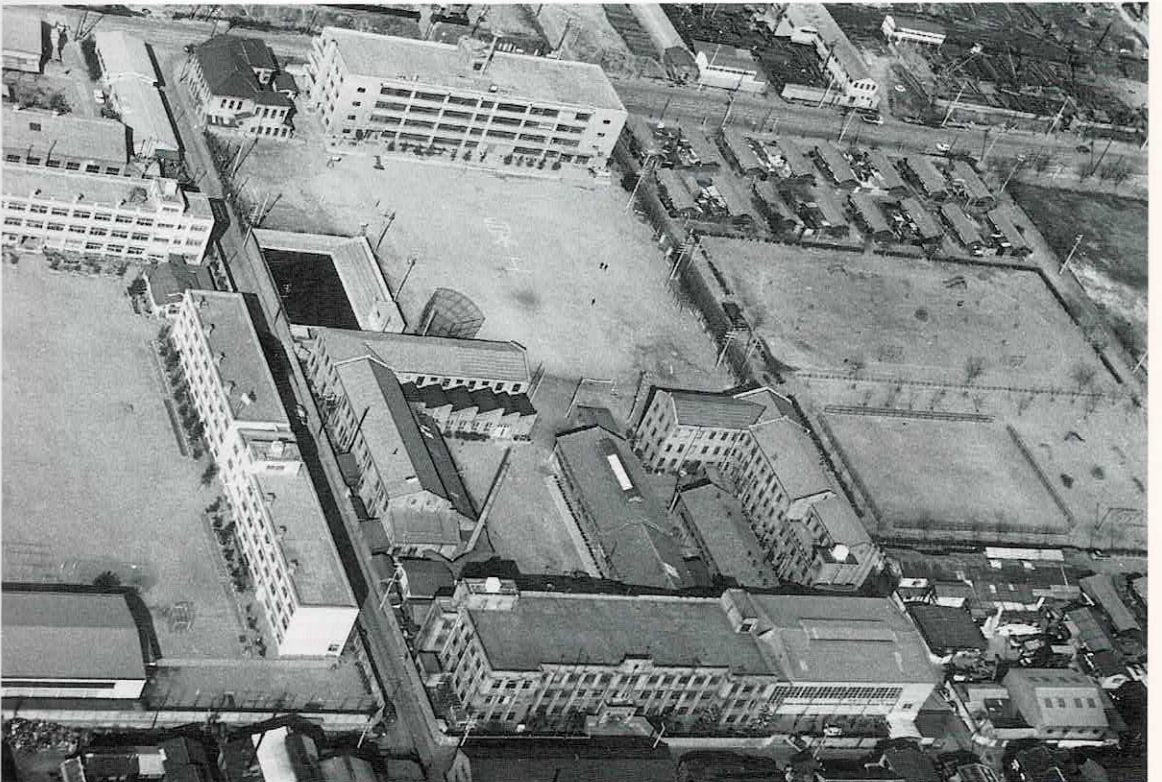
■ 工業高等学校時代



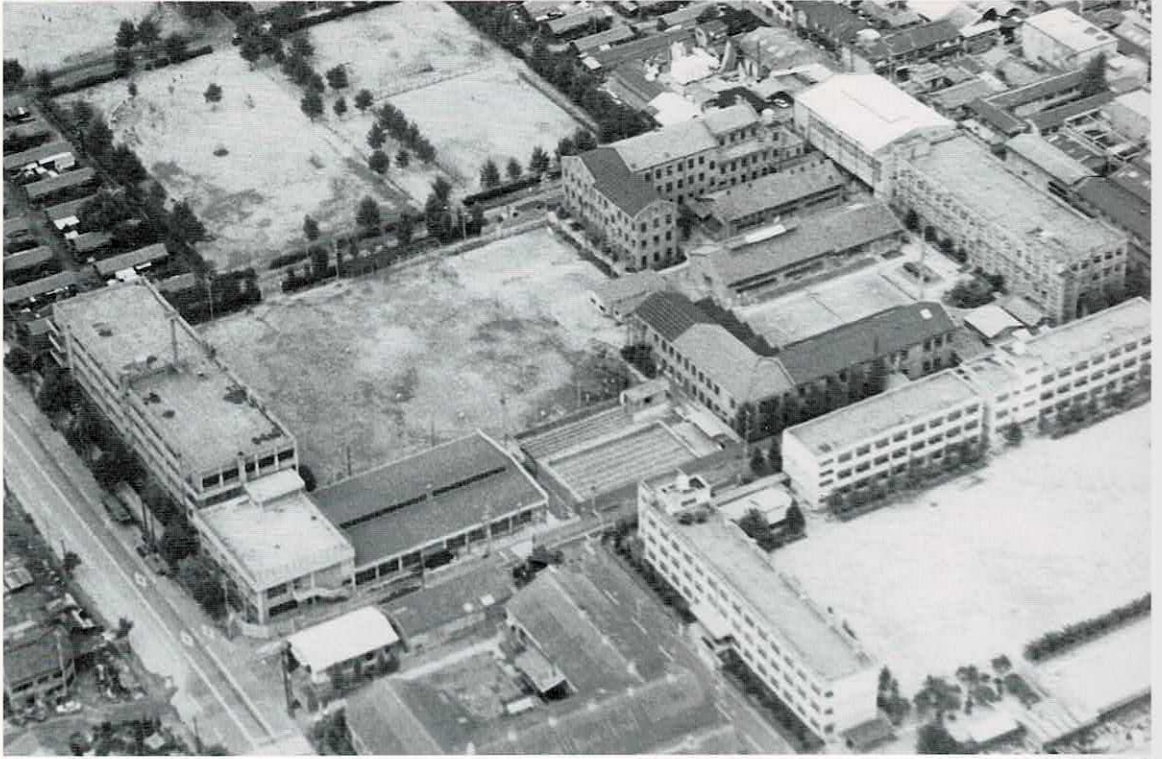
昭和31年(1956)



昭和37年(1962)



昭和43年(1968)



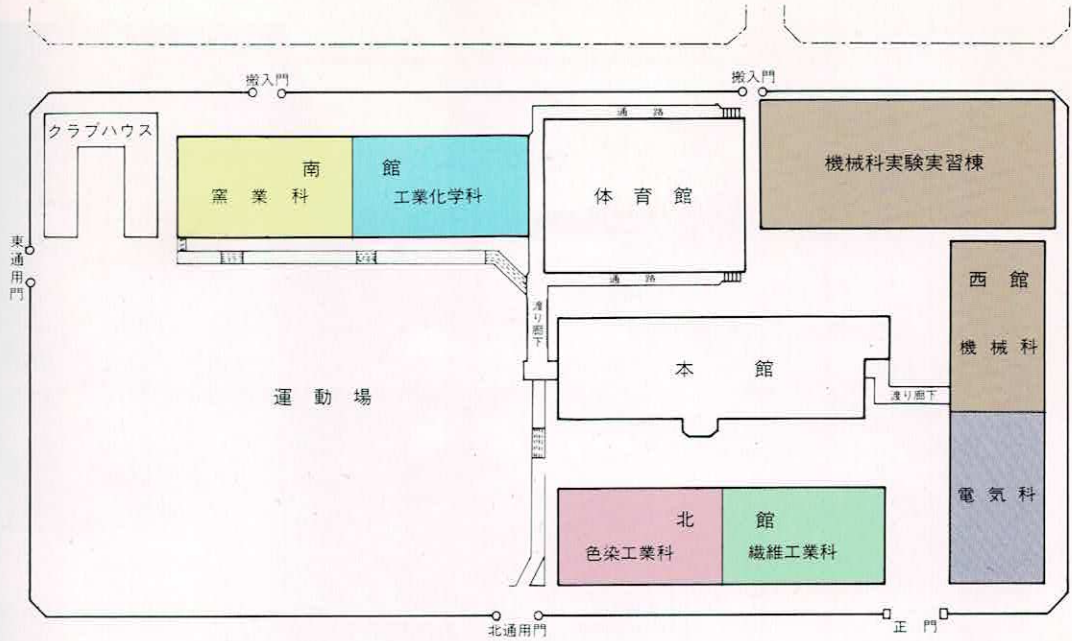
昭和47年(1972)



昭和57年(1982)

現 在

昭和61年 (1986)



校舎配置図



鳥瞰図

正門 渡り廊下

(昭和60・61年完成)



正門・本館一西館の渡り廊下



本館一体育館一南館の渡り廊下

本館

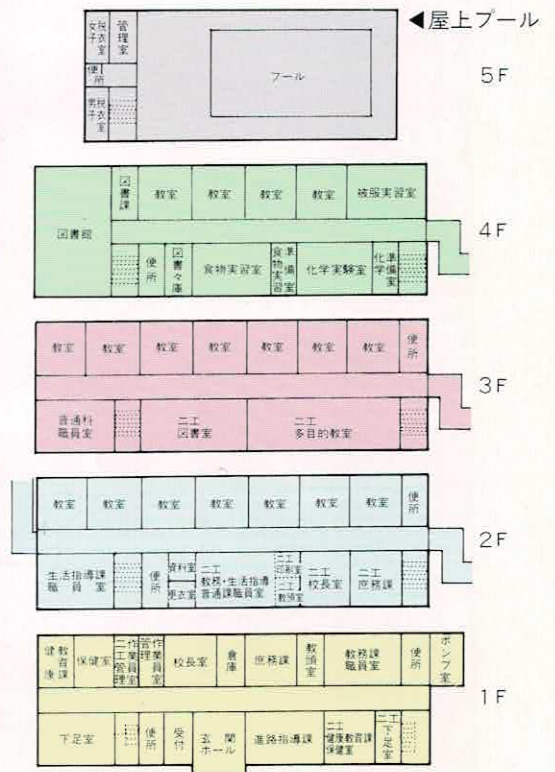
(昭和60年完成)



▲屋上プール



▲図書館



各階のあんない

体 育 館

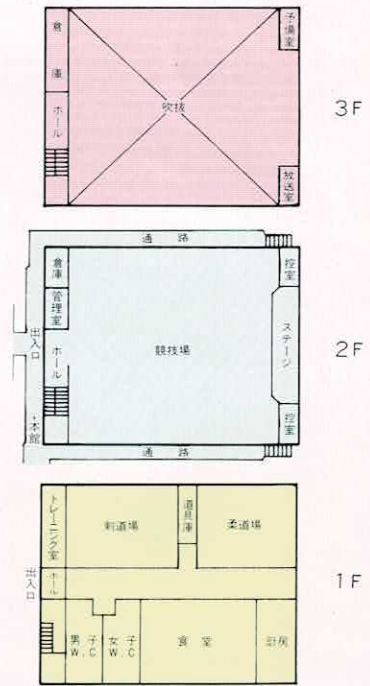
(昭和61年完成)



◀ 舞台



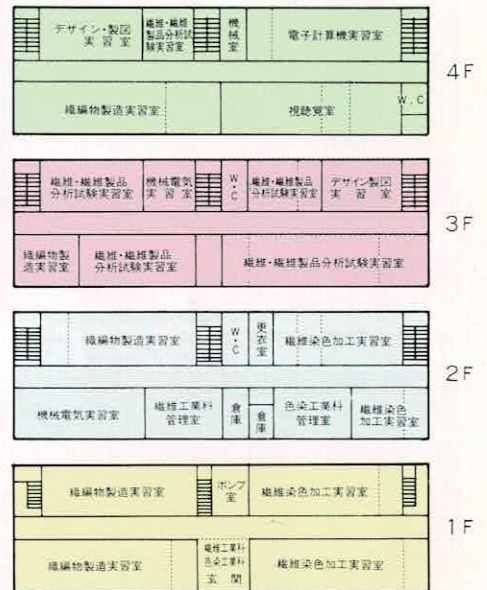
◀ 競技場



各階のあんない

北 館〔繊維工業科・色染工業科〕

(昭和50年完成・昭和53年完成)



各階のあんない

◀ 玄関

南 館〔工業化学科・窯業科〕

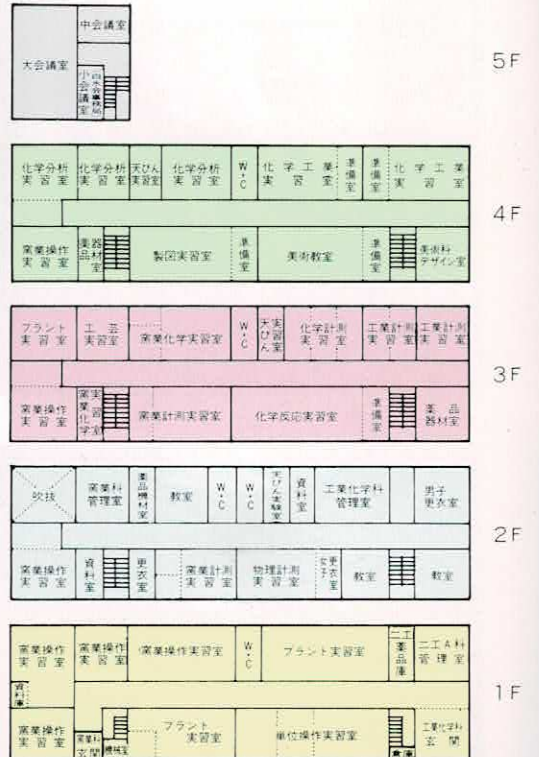
(昭和57年完成・昭和58年完成)



▲工業化学科化玄関



▲窯業科玄関



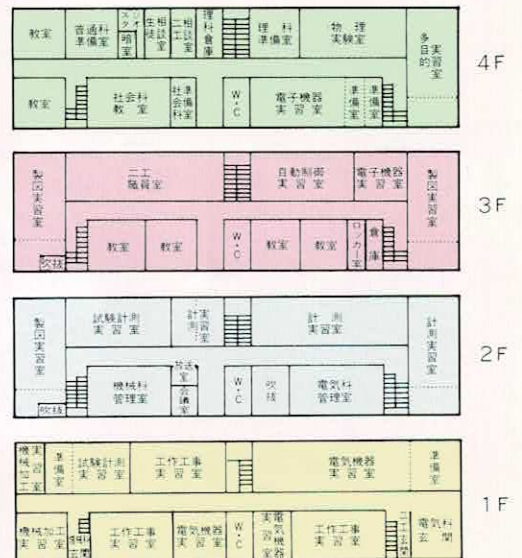
各階のあんない

西 館 [電気科・機械科]

(昭和38年完成・昭和39年完成)



◀機械科

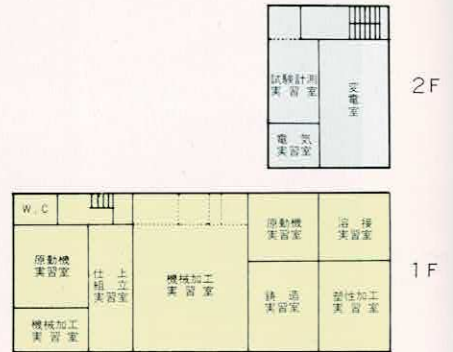


各階のあんない

◀電気科

機械科実験実習棟

(昭和47年完成)



各階のあんない



食 堂

体育館 1 階



柔 道 場



剣 道 場

校章のいわれ

5つの波を梅花の花弁になぞらえ、上部に市章を配し、その下に工の一字を入れたもので、創立以来変っていない。

校旗のいわれ

創立当時の4科（紡織・色染・窯業・応用化学）の協同製作によるもので、地色の基調は紅白（紅はスクールカラーの臙脂^{えんじ}）、地模様は大阪市章漆（みおつくし）を金色に織出し、その上に校章を配してある。地色は熱誠と純潔とを表わしている。生地は表裏一体の錦織である。

地名「泉尾」の由来

本校の所在地は、江戸時代の初期に港町として栄えた三軒家の西に位置した三軒家浦にあたり、木津、尻無川の三角洲で蘆草が茂り、波浪がその根を洗う荒れた洲渚でした。

江戸時代の中期になって、淀川治水のため幕府は河口に新田開発事業を奨励しました。泉州大鳥郡踞尾^{つぐ}村の富豪北村六右衛門(1644—1708)は莫大な私財を投じたが、たび重なる地震洪水で開拓は困難をきわめました。4年かゝりて元禄15年(1702年)に完成し、これを機にそれまで用いられた「三軒家浦新田」の地名を改め、北村六右衛門の故郷泉州大鳥郡踞尾村（国鉄阪和線津久野駅付近）の「泉」と「尾」の二字を取って「泉尾」と名付け思い出の地名としました。

校舎落成記念誌

昭和61年10月10日 印刷

昭和61年10月18日 発行

編集 大阪市立泉尾工業高等学校
校舎落成記念式実行委員会
発行所 大阪市立泉尾工業高等学校
大阪市大正区泉尾5-16-7
TEL. 552-2221
印刷所 光写植
大阪市西区江戸堀1-23-4
TEL. 443-2198

